

八戸市まちの魅力創生ネットワーク会議

資料 1
第3回会議資料
令和5年6月1日

第2回会議での意見内容とりまとめ

総合政策部 政策推進課





令和5年度政策提言の方向性について

【A委員】

- ・高校生以下に八戸市への愛着を持ってもらうような政策をやっていければ良い。その手段として、中心街の活用や交通の利便性などをテーマにするのも良いかと思う。

【B委員】

- ・若者に着目するのが良いと思うが、着目する視点として、八戸への愛着を向けることなのか、大学卒業後に戻ってきたいと思える環境づくりなのか、色々と考えていきたい。

【C委員】

- ・中高生辺りが、考える力というのが伸びてくるところだと思うので、そこにフォーカスしたい。
- ・アンケートも、中学生ならGoogleフォームで回答できると思うので、回答率も高まると思う。

【A委員】

- ・やはり、中高生が良いターゲットだと思う。アンケートは高校生も対象にしても大丈夫だと思う。

【D委員】

- ・大学とかで一度県外へ出てしまうと、視野が広がり外への志向になるので、中学生辺りから地域の魅力に目を向ける教育ができれば良い。

【E委員】

- ・中高生が県外へ出て行った後でも、戻ってきたいと思える、地元への思いを繋ぎとめる何かが必要。
- ・安心して楽しく子育てがしやすい施設があれば、中高生たちが大人になった時に1つの魅力になるのではないかと。

【F委員】

- ・若年層は、雇用対策を重視しているデータがあるので、雇用の側面は外せない視点だと思う。
- ・教育対策について、掘り下げて具体化するのも良い。あとは、八戸市では、選択肢の少なさが課題だと思うので、それもキーワードの1つになるのではないかと。

【G委員】

- ・生まれてから18年、ここで一度対象から離れて、子どもが出来た瞬間にまた対象となって18年。空いている真ん中にフォーカスするテーマ設定も1つの選択肢となるのでは。
- ・中高生は、何でも出来るようになり、結構放置されがちな年代であるので、ここは補強するところかもしれない。
- ・わざわざ八戸に愛着を持たせるよりも、単純に八戸で楽しく過ごした実感があれば、八戸を好きになるのでは。放置されがちな中高生とその親に対して、心を動かせる政策ができれば面白いと思う。



令和5年度政策提言の方向性について

【グループワーク】

- 他の行政との比較ができるようなアンケートの実施により八戸市の政策の強み・弱みを明確にする
- 体験型、参加型の学生向けイベントにより社会教育を思い起こす
- ティートスポット、楽しい場 → 街の魅力
- 子育て世代よりも若い世代に向けた魅力発信

アンケート

- 誰に?
- どのくらい?
- アンケートなの?

中高校生 ↔ 教育 / 収入 ↔ 親

親 — X —> 若者

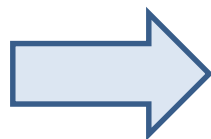
若者

◦ 盆・正月 ◦ 部活 (町内会・PTA・PTA大会!)

子ども会 ◦ しやみ・しや

- 提言の前提は地元定着増なのか?
- 地元で生活
- リターン: どうか意識なのか知れない (インターンも)
- 地元の安心感(バのし)と定着があるのではいか
- 社会経験のリターン (ex. インターン、課外活動)

政策提言の方向性

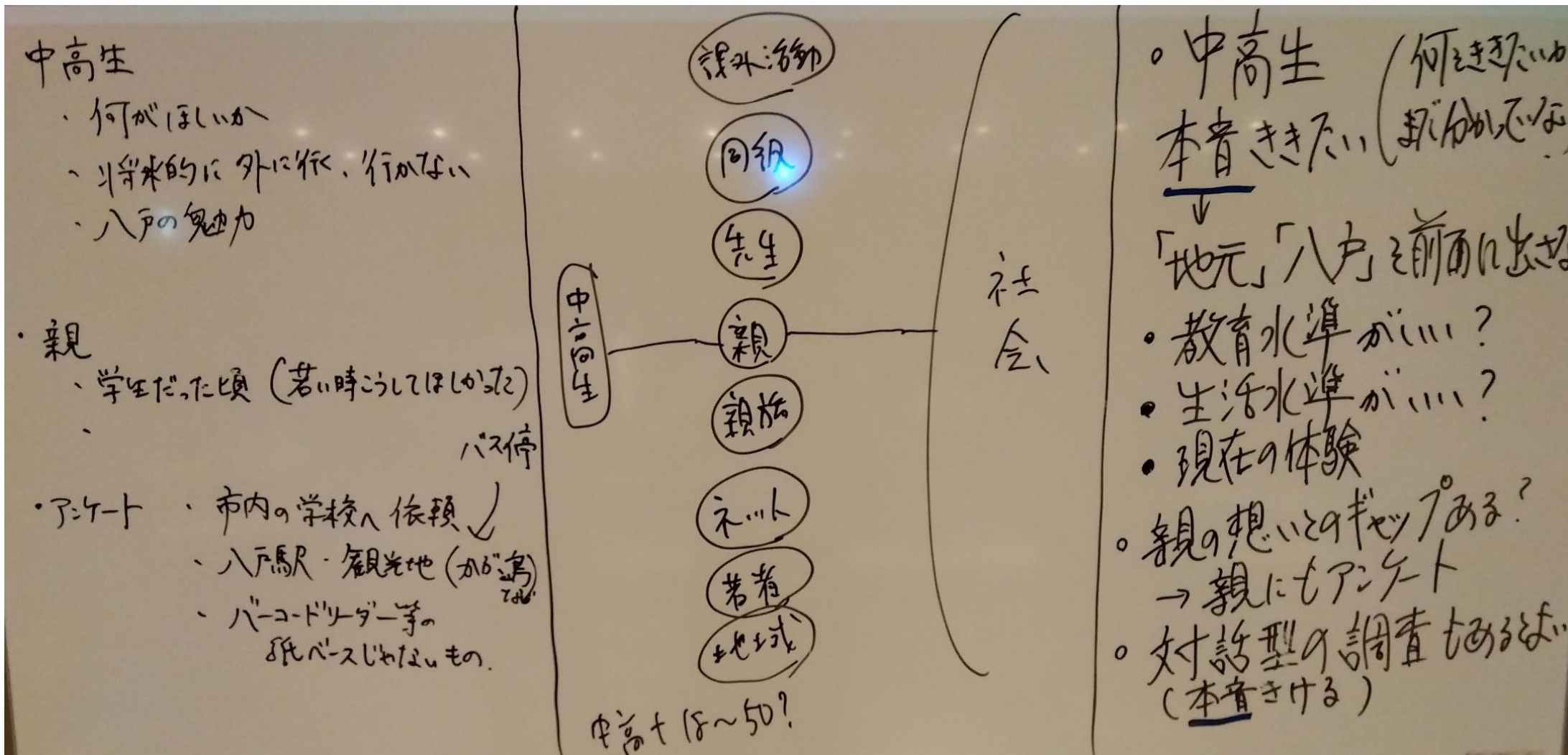


中高生にフォーカスした内容



■ アンケート調査について

【グループワーク】





■ アンケート調査について

【F委員】

- ・中高生と親とのパイプは最近では課題となっている。社会教育、地域教育が充実していることは、その地域で暮らすことの魅力に直結する。

【H委員】

- ・中学生から自己肯定感が急激に落ち始めるということで、親の方から勝手に距離を置いている部分もあり、それが認識の違いを生んでいるかもしれない。自分から寄り添っていくことも必要では。

【B委員】

- ・自分の経験を生かして、中高校生に対する具体的な取組を検討していきたい。

【I委員】

- ・中高生の本音を聞く意味でも、対話型の調査もいいのでは。

【E委員】

- ・最近、高校生を見ていて、アクティブに自分で考えて自ら積極的に情報を得る子と、スマホとか手元の世界でとどまってしまう子と、二極化が見られるので、アンケートの中からそのような背景を捉えることができれば良い。

【J委員】

- ・この会議のテーマを踏まえ、日ごろの生活の中でも、色々な人から話を聞くのも面白いと思う。

【D委員】

- ・等身大の本当に思っていることを答えていただける、アンケートなり意見を聞く機会があれば良い。

【A委員】

- ・高校生は、話せば話すほど本音を出してくれる。自分たちが想定していることと違う結果がアンケートから見えてくればうれしい。

【C委員】

- ・自分が高校生の頃と比べて、今の高校生は、考える力があるのに、社会と接する機会がないところがあるので、高校生へのフォーカスは良い。

【G委員】

- ・親は、子どもに対して完璧に100%エネルギーを注ぎ切れていない、後ろめたさのようなものを感じていると思うので、そこへの提言であれば市民の皆さんとも共感できそうな気がするし、親が頑張る態度を見せられたら、子どもも親の話に耳を傾けるようになるのでは。